

議会活性化検討特別委員会に対する

質問と回答(抜粋)

Q. 議員のなり手不足解消のため、報酬の決め方を地域の実情に合わせて独自に決めるべきではないか

A. 現在の議員報酬は、全国町村議会議長会の算定式も参考にしつつ、地域の状況を考慮して決めています。しかし、なり手不足の解消を最優先に考えるならば、地域独自の視点から報酬額を見直すことも検討し、さらに議論を深める必要があると考えています。議員報酬の見直しだけでなく、立候補しやすい環境を整えることや、議員の役割・魅力を広く発信していくことも、同時に重要な課題として検討を進めています。

Q. なり手不足は以前から課題だったと思いますが、報酬増額以前にどのような取組をされてきたのでしょうか。

A. なり手不足は以前から認識しており、議員活動のやりがいや意義を住民の皆様へ伝える機会が不足していたことを課題として受け止めています。なり手不足の解消には、議会の説明努力はもちろん、住民の皆様が議会に関心を持ち、自ら関わろうとする意識も大変重要だと考えています。今後は、双方向の理解促進に向けた取組を進めてまいります。

Q. 若者の声を集め、スムーズなやり取りのために議会公式LINEの導入を

A. LINE導入によるコミュニケーションの可能性を認識している一方、個人情報保護、誹謗中傷リスクへの対応、意見収集ルールの整備、運用コストと事務的負担など、慎重に検討すべき課題があると考えています。今後、他自治体の導入事例も参考にしながら、運用が可能かどうかを検討していきます。

Q&Aの全文は近日中に飯南町議会のホームページに掲載予定です。

採決の結果 [6月定例会]

議案の採決結果は次のとおりです。

件 名	結果	伊藤好晴	熊谷兼樹	内藤眞一	高橋英次	安部誠也	景山登美男	安部 丘	平石玲児	戸谷ひとみ
飯南町税条例の一部を改正する条例の制定	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和6年度飯南町一般会計補正予算(第10号)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和6年度飯南町下水道事業会計補正予算(第5号)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町人・農地プラン検討会設置条例を廃止する条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
財産(消防軽積載車)の取得	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
財産(堆肥運搬車両)の取得	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
財産(マニアスプレッダ)の取得	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
財産(町営バス車両)の取得	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
財産(頓原中学校スクールバス)の取得	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
財産(学習者用コンピュータ)の取得	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和7年度飯南町一般会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和7年度飯南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和7年度飯南町介護保険サービス事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和7年度飯南町病院事業会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和7年度飯南町簡易水道事業会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和7年度飯南町下水道事業会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町議会会議規則の一部を改正する規則の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○:賛成 ●:反対 欠:欠席

一般質問

令和7年
6月定例会

スキー場にホテルを創るのか

安部 誠也 議員



Q 就労外国人を受け入れは

町内企業で就労している外国人は何人か。また、これまで企業内での問題や地元住民とのトラブルなどはあるのか。

少子高齢化・人口減少社会の中で、外国人就労者の受け入れはもつと増える。町として企業に対する支援や外国人就労者の活躍に向けての考えを問う。

政府は人材の育成・確保を目的とする「育成就労制度」を創設する。問題点も把握し、現場からの意見や提案を町が積極的に吸い上げていくこと(ポトムアップ)が大切と思うがどうか。

A 現場の声を聞く

町長塚原隆昭

町内企業には48人。失踪事案が2件でトラブルは聞いていない。人手不足が深刻な建設業、製造業、福祉施設が主だが、「飯南町中小企業人材

確保対策事業助成金」や介護人材を確保するための「飯南町外国人介護福祉人材確保対策事業助成金」も支給している。
町としては、既に雇用されている現場の声をしっかりと聞き、支援できることはする。

Q スキー場ホテルは

施設老朽化のため、現在の施設の課題を整理し、将来を見越した機能再編ができるよう、観光宿泊交流施設の今後のあり方が検討されている。

観光施設と、地域交流施設である「衣掛」を一緒に考えているため、町執行部に対し、町民の疑問と不信感が募っている。まずは住民の声に耳を傾けるべきだ。むしろ町民からは、建設事業費が増額されるご時世なので、今ある宿泊施設を大事に使うべきだとの意見が聞かれる。まだスキー場に新たなホテルの建設を考えているのか。

A 住民、利用者の声を聞く

町長塚原隆昭

赤名の説明会では「衣掛」宿泊施設を残して欲しいという意見が多数だった。

新たな宿泊施設建設をするとした方針ありきでなく、地域住民や利用される方の声を聞き整備方針を固めた。



憩いの郷 衣掛

Q iまるシェの閉店は

三次市の飯南町アンテナショップ(iまるシェ)を正式に閉店するが、契約状況とその後の方針は、出荷者団体へのフォローはしているのか。

A 今年度末まで

町長塚原隆昭

賃貸契約が終了するのが今年度末で、指定管理先である有限責任事業組合飯南パートナーズも解散される。7月に農家の皆さんに閉店のお知らせをし、2月末まで営業、3月は店舗の片づけ。4月以降はそば店を運営されている個人事業主の方が新たに賃貸契約をされ営業される。

出荷者団体への対応・出荷先の確保はJ Aと協議する。